

名古屋大学 国際言語文化研究科 ヨーロッパ言語文化講座

2010年度 授業紹介

◆ 上原早苗 「ヨーロッパ文化分析批評論」



- ◆ 今年度の前期は、「文化研究の方法論」というテーマで演習形式の授業を行っています。論文を読む/書くうえで必要とされる様々な分析法を学ぶことを目指しています。後期は、前期に学んだ分析法を実際に使用しながら、ヴィクトリア朝イギリス社会における検閲制度について考察する予定です。

◆ 鶴巻泉子 「国際社会学演習」



- ◆ 今年度は前期に少数言語と多言語主義、後期には国民国家とトランスナショナリズムをテーマに、グローバル化と共に注目されるようになった現象とそれが提起する理論的問題を考えます。講義・講読双方を織り交ぜた授業形式となっています。

◆ 村主幸一 「ドラマ研究概論」



- ◆ 私が担当する授業科目「ドラマ研究概論」は、従来のドラマ研究と近年のパフォーマンス研究の両方を視野に入れています。前者では、ドラマ研究の基礎を成す、演劇テキストの特徴を意識した読解能力を訓練し、後者では、ドラマ(パフォーマンス)とアイデンティティ・テクノロジー・社会などとの関係を考察する視点を養います。

◆ 松岡光治 「ヨーロッパ都市文化論」

- ◆ この授業は将来高校や大学で教養レベルの英語を教えるために、英語の文学作品やその他の文献の精読および多読により、英語読解力を徹底的に鍛えている。同時にテキスト分析においては、近代人の意識が捉えた都市のイメージをできるだけ多くの視点から考察し、独自のアプローチをするための新しい視点の発見に努めてもらっている。



◆ 西川智之 「ヨーロッパ文化芸術論」

- ◆ 今年度の授業では、世紀転換期のウィーンについてのドイツ語論文を読んでいます。ウィーン世紀末といえば、クリムトなどの華やかな文化を思い浮かべるでしょうが、今年度は、むしろ貧困層や経済格差、ユダヤ人の状況など、華やかな文化の背景、根底にあった問題を扱おうと思っています。授業では、ドイツ語の文章を丹念に読み、それを理解することが主となるため、かなり地味な地道な作業が求められます。

